

そっくりな2つの多肉植物： カニバサボテンとシヤコバサボテンの違い

混同されがちな冬のサボテンを見分けるためのボタニカル・ガイド

Botanical Field Guide
& Care Manual



なぜ私たちはこの2つを混同するのか？



園芸店やご家庭で、この2つの多肉植物は頻繁に混同されています。どちらもブラジル原産の森林性サボテン（サボテン科）であり、冬の寒い時期に非常によく似た鮮やかな花を咲かせます。

しかし、葉の形状と開花時期に注目すれば、その違いは驚くほど明確です。



Plant Profile 01:

カニバサボテン

- 分類：サボテン科シュルンベルゲラ属
- 学名：Schlumbergera bridgesii
- 原産地：ブラジル
- 視覚的特徴：カニの爪のように連なる扁平な多肉質の葉。表面はすべすべしており、トゲはありません。株が大きくなると、葉の節が増えてしだれるように育ちます。

Plant Profile 02:

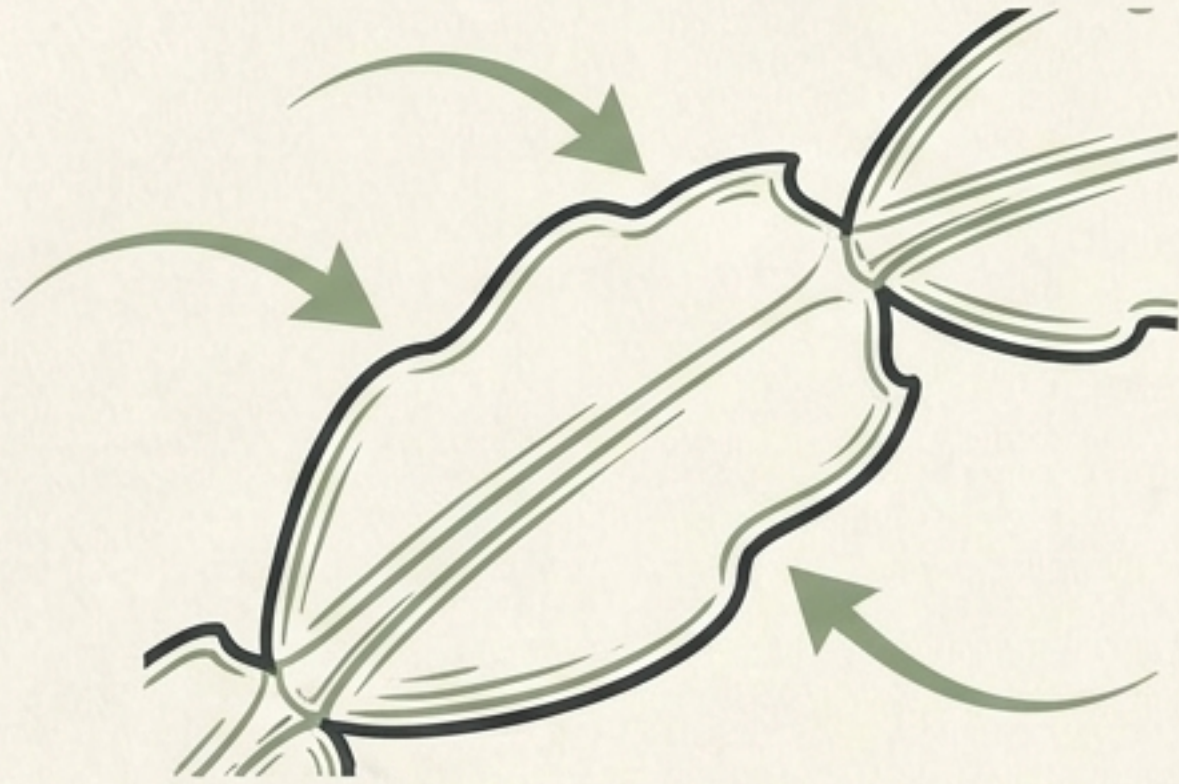
シャコバサボテン

- 分類：サボテン科スクンベルゲラ属
- 原産地：ブラジル
- 別名：クリスマスカクタス（海外での呼称）
- 視覚的特徴：海老に似た「シャコ（蝦蛄）」を連想させる、縁にギザギザのついた葉。多彩な園芸品種が存在し、赤、ピンク、白、黄など様々な色の花を咲かせます。



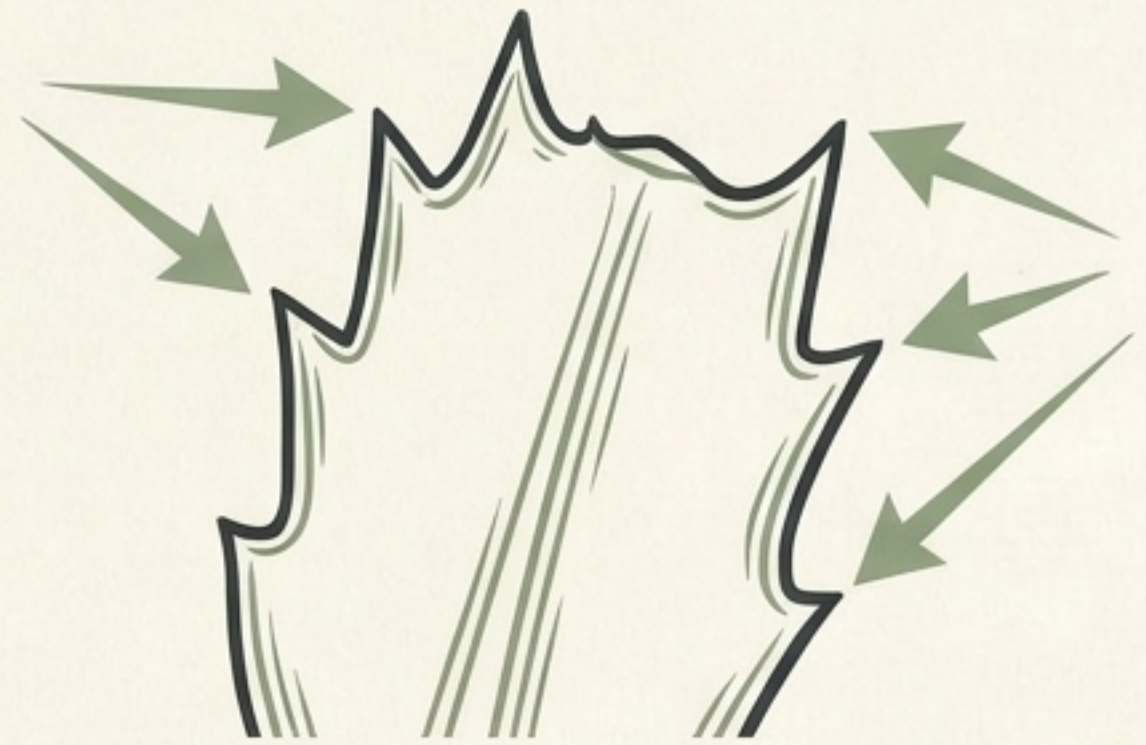
見分け方のポイント1：葉のシルエット

カニバサボテン



【緩いくびれ】縁はすべすべとしており、トゲのような鋭さはありません。

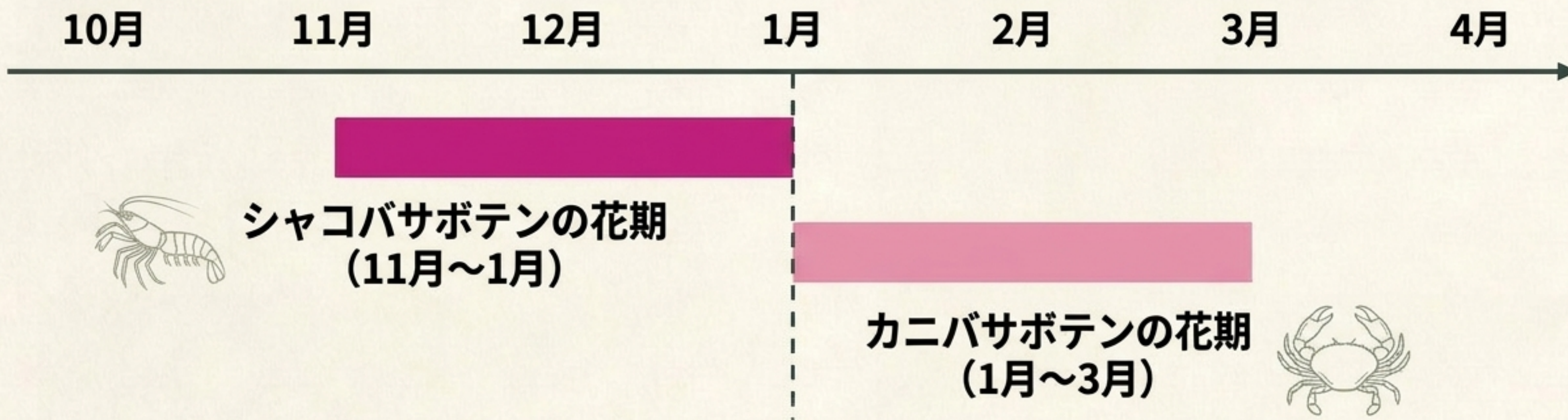
シャコバサボテン



【鋭いギザギザ】縁に明確な突起があり、ノコギリのような形状をしています。

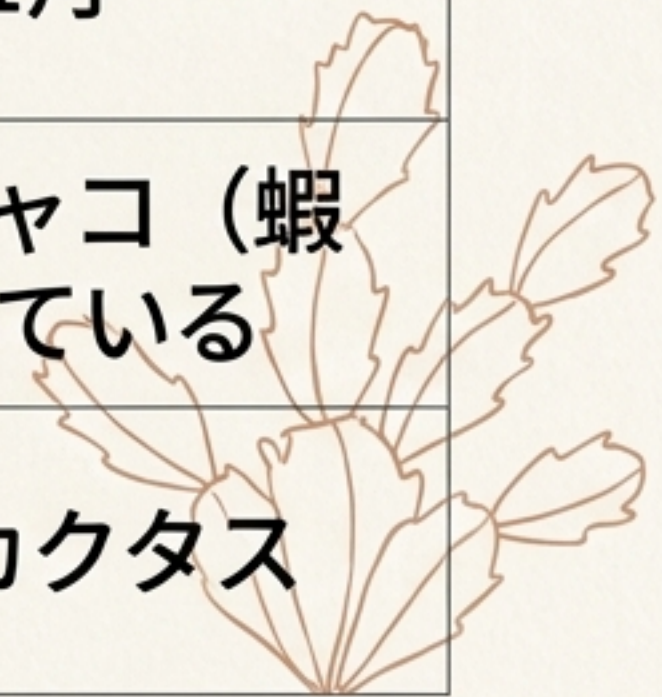
見分け方のポイント2：季節をまたぐ開花リレー

シャコバサボテンがクリスマスの時期を彩り、その後を引き継ぐようにカニバサボテンが春先にかけて咲き誇ります。



識別マスターマトリックス

項目	カニバサボテン	シャコバサボテン
葉の縁	緩いくびれ・すべすべ	ギザギザの突起あり
花期	1月～3月	11月～1月
名前の由来	葉の形が「カニの爪」に似ている	葉の形が「シャコ（蝦蛄）」に似ている
別名	(特になし)	クリスマスカクタス



共通の生態メカニズム：「短日植物」とは？

姿や開花時期が異なっても、両者は同じメカニズムで花芽を形成します。
それは「日照時間が短くなること」を感知する性質です。



日照時間が短い
(11月～3月)



日照時間が長い
(室内照明の影響)



夜間の照明に注意！

10月以降、夜遅くまで室内の
明かりに当たっていると花
芽がつきません。

夜間はしっかりと暗い場所に
置くか、段ボール等で覆う工
夫が必要です。

季節ごとの環境管理ガイド

春～夏



【明るい日陰】

暑さには強いですが、直射日光は葉焼けの原因になります。
戸外の風通しの良い日陰で管理します。

冬



【室内で5℃以上】

寒さには弱いため室内に取り込みます。ただし、暖房が効きすぎると乾燥で蕾が落ちるので注意が必要です。

秋



【日照時間の管理】

花芽を形成させるため、夕方以降は光を遮断し、夜の長さを確保します。

植え替え



【1～2年毎の春】

連作障害を防ぎ、水はけを保つため、バーミキュライトやパーライトを含んだ用土で4月頃に植え替えます。

水やりと開花準備のルール

水やりの基本



- 4月～9月（成長期）：土の表面が乾いたら、鉢底から流れるまでたっぷりと与える。
- 10月～11月（蕾の時期）：土の表面が乾いてから「さらに1～2日待って」水を与える。やや乾燥気味に管理。

花芽を増やす「葉摘み」



- 春の作業：各枝の先端の茎節を2節程度、軽くひねり取ります。
- 秋の作業：伸びた新芽を摘み取ることで、一斉に充実した花芽がつきやすくなります。



寒い季節を彩る、鮮やかな命のバトン

葉の形を見極め、光と水のサイクルを整えることで、カニバサボテンとシャコバサボテンは確実に応えてくれます。
クリスマスの時期から早春にかけて、あなたの部屋を明るく照らす2つの美しい植物の開花リレーを、ぜひ楽しんでください。